

## 令和4年度 学校評価実施報告書

学校名 (京都市立桃陵中学校)

教育目標	
『自ら学ぶ 豊かな心をもつ 社会に貢献する 生徒を育む』	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>自ら学ぶ意欲という点において、家庭学習や読書の習慣は定着してきている。コロナ禍の中、カリキュラム・マネジメントを行い、学校行事などの教育課程を再編成した。学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査の結果は、良好な状態を示している。学校評価アンケートの結果を見ると、概ね昨年度と同じ傾向を示している。以上のことから、概ね達成できたと考えている。つきたい資質・能力の見直しを考えながら、次年度の改善点を考えていきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>落ち着いた教育環境で生徒たちの学習や活動が保障され、各種調査の結果も良好であることを評価したい。引き続き生徒の学力向上に取り組んでほしい。小中一貫校ではないが、一小一中の地域である。そのメリットを最大限にいかす連携・協力を期待している。小学校PTAと中学校PTAの合同で実施する地域行事（生涯学習フェスティバル・はたちを祝う記念式典・地域パトロールなど）が少しずつではあるが再開できた。来年度もこの地域らしい工夫をしてもっと連携して、子供たちにとって良好な環境作りしてほしい。</p>

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月14日	学校運営協議会 役員、委員
最終評価	令和5年 2月24日	学校運営協議会 役員、委員

## (1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標
<p>①基礎基本の徹底に努めるとともに、 わかる喜びと学ぶ楽しさを実感させる授業の確立に努める。 (学習指導要領の内容を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善)</p> <p>②自らしっかり考え、 自分の考えや思いを伝える力の育成と、 言語活動の充実に努める。 (自分の考えや思いを書いたり、 発表したりする機会を作り、 自分の考えや思いを話しやすい雰囲気作りに努める。)</p> <p>③深い学びを創出する言語活動を通して、 思考力・判断力・表現力を高める。</p> <p>④指導と評価の一体化を目指し、 学習評価の妥当性と信頼性を高める。</p> <p>⑤家庭学習の定着を図るとともに、 個々にあった学習課題の設定に努める。</p>

## 具体的な取組

### ★学習指導の充実

- ① 基礎学力の定着を図る。
- ② 学びに向かう力・人間性等、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の3つの資質・能力を全ての教科等で育成を図れるように研究していく。
- ③ 授業改善・授業の工夫…  
☆「主体的な学び」を促す授業の工夫、「知識・技能を活用して思考させる」ための授業改善を目指し、日々教科指導力を自己研鑽する。  
☆授業スタイルのパターン化→（１）授業の始めに「本時（○時間）の目標」  
…タイトルでなく、具体的な行動目標として表現したものを提示、授業の振り返りにつながる目標であること。  
（２）授業の最後に「振り返り」…この時間で学んだことを自覚させる。  
☆言語活動や問題解決的な学習の充実…言語活動を充実させることで、言語化するための思考を促し、言語化することにより、言語による対話を促して学びを深める場面を積極的に学習活動に取り入れる。  
☆活用・展開の仕方についての研修を深めて、授業改善や授業力を向上させる。  
☆授業の環境作りを徹底→集中力アップにつながる。  
☆ベル着の徹底  
☆GIGA スクール構想の下、ICT を活用する。
- ④ 教科会の充実…☆教科指導法＋評価について研究、共有、実践する。  
☆研修などの得られた情報を共有する。  
☆定期テストの吟味を行う。
- ⑤ 学力実態の分析・把握…学力向上委員会を定期的に開き、生徒の学力実態を分析・把握し、「確かな学力」の育成に向けて学力実態に沿った取り組み、指導を行う。  
→研修会・教科会・学年会で共通理解
- ⑥ 家庭学習の定着…☆基礎基本や応用力のつけ方など、家庭学習（自学自習）の方法を伝えとともに促進に力を入れる。  
☆手だての必要な生徒についても達成できるような内容の課題を与える。  
☆全学年部活動休息日を家庭学習課題の日と設定し、家庭学習の定着と基礎学力の向上を図る。家庭学習は国社数理英の5教科で行う。
- ⑦ 朝読書の徹底・終学習の実施
- ⑧ テスト前・休業中の学習会の充実

## （取組結果を検証する）各種指標

- 全国学力・学習状況調査、学習確認プログラム等の結果
- 生徒質問紙の結果
- 生徒、保護者、教職員アンケートの結果

## 中間評価

### 各種指標結果

- ・全国学力学習状況調査においては、平均正答率で、国語＋1.7、数学＋1.7、理科＋2.2 全国平均を上

	<p>回った。また、学習確認プログラムにおいても、2年生、3年生ともに前年度同様指数を伸ばしており、大変良好な結果であった。1年生のジョイントプログラム結果も大変良好な結果であった。</p> <p>・生徒、保護者アンケートでは、生徒の87.3%、保護者の74.1%が「小学校・中学校での学習が概ね身についている」としており、また、家庭学習に関わる項目では、「努力している」という回答は、生徒は-0.05 適合度減っているが、保護者+0.35 適合度伸びている。この点については、全国調査生徒質問紙でも、「学習した内容について、わかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」という質問で、「している・どちらかといえばしている」の回答が84.7%で、全国平均を大きく上回っている。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>生徒、保護者アンケートの「様々な取り組みを友達と協力して参加できていると思うか」という項目で、「そう思う・大体そう思う」の回答が、生徒94.1%、保護者90.7%という結果であった。この数年、生活習慣と学習規律の確立により、生徒たちは落ち着いた環境で学習に取り組んでいる。そのような背景が、生徒の学力の安定につながっていると考えている。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>数年前から導入している学び合いの学習形態が一定の定着を見せており、どの教科においても小グループによる学び合いの学習が取り入れられている。コロナ感染症対策により、対策をしながら、より有効的な活動の工夫を考え、できる取組を考え、教科会・校内研修等を通して、さらなる授業改善、授業力向上に取り組む必要がある。家庭学習については、「家庭学習の日」の取組が定着してきているが、アンケート結果からは成果を確かめられるところには至っていない。今後も、指標結果等で検証しながら、取組の充実を目指す必要がある。</p> <p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>○学習確認プログラム等の結果</p> <p>○生徒、保護者、教職員アンケートの結果</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>OGIGA 端末に関しては、個人差が大きいと思います。保護者が追いついていない部分もある。</p> <p>OGIGA 端末の利用するときには、もっと効率性を重視して欲しい。</p> <p>○進路の目標をもたせることが意欲につながると思います。もっと進路情報も知らせて欲しい。</p> <p>○家庭学習の中身が大切だと思います。</p>

#### 最終評価

	<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p> <p>後期学校評価アンケートの「あなたは、家庭で毎日の予習や復習に努力していると思いますか。」では、「よくできている・大体できている」の回答の適合度が、前期と後期を比べて、生徒は少し上がり、保護者はほぼ同じ、教職員は少し下がっている。「あなたは、家庭で進路や将来のことについて考える機会が持てていると思いますか」では、「よくできている・大体できている」の回答の適合度が、生徒・保護者・教職員とも大きく上がっている。</p> <p>ジョイントプログラム・学習確認プログラムの結果では、1年生は4月と10月の平均正答率は、全市平均と比較すると、ほぼ同じ教科が1教科、4教科は大きく上回っている。2年生・3年生は、第1回と第2回の平均正答率は、全市平均と比較すると、どの教科も大きく上回っている。全体的に安定した結果であった。</p>
自己	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>新型コロナウイルス感染症対策をしながら、GIGA 端末の効果的な利用の取り入れや、小集団での学び合</p>

評価	いの機会を増やすなど、主体的で・対話的な深い学びを意識した授業を行っている。GIGA 端末を生徒自身が自主的に利用する機会も多い。学習確認プログラムの結果からも、一定の成果が現れている。
	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <p>与えられた課題に関しては真面目に取り組む生徒が多く、家庭学習についても日々の積み重ねができていられるが、生徒自身がより自分で考えて取り組めるような内容に改善が必要だと考える。また、学習指導要領に基づいた指導と評価の一体化についても、教科会・校内研修などを通して、引き続き、さらなる授業改善・授業力向上に取り組んでいく必要があると考える。</p>
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>○朝読書の10分間は、とても貴重な時間だと感じています。良い取り組みだと思います。</p> <p>○家庭ではスマートフォンの使い方について課題がありますが、(動画を見たりやゲームをする時間が長いこと) 学習習慣を身に着けられるよう親としてサポートしていきます。</p>

## (2)「豊かな心」の育成に向けて

<p><u>重点目標</u></p> <p>① より良い人間関係を築こうとする実践意欲を高めるために、すべての教科・領域において、しなやかで豊かな感情を養う指導を行う。(正しい言葉遣い・挨拶・感謝の気持ち)</p> <p>② 道徳の時間を中心としたしなやかな道徳教育の実践を推進し、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考え共感できる心を育成する。</p> <p>③ 自尊心を高め、生徒一人一人が自らの力を発揮できる、集団づくり、学級経営を推進する。</p> <p>④ すべての教育活動で障害についての理解と認識を深め、互いに尊重し、共に成長し合う教育を推進する。</p>
<p><u>具体的な取組</u></p> <p>① <u>生徒実態や学校行事の時期に対応した学習教材の選択。カリキュラムマネジメントの意識と教育活動全体で行う道徳教育の意識を高める。</u></p> <p>② 全校的な教育相談期間の設定、日頃の休み時間や放課後での生徒との語らいの重視。心とからだのアンケート・クラスマネジメントシートの実施、分析、教職員間の共有や保護者との連携をすすめて、よりよい生徒理解につなげる。</p> <p>③ 多様性を認め合い、それぞれが輝ける集団をつくる意識を高める指導を行う。お互いの立場を考える指導と学級集団作りの推進。</p> <p>④ 生徒会活動を促し、生徒による自治意識を高めたり、お互いの良い所を伝え合ったりする活動の推進。</p>
<p><u>(取組結果を検証する) 各種指標</u></p> <p>○生徒、保護者、教職員アンケートの結果</p> <p>○生徒質問紙の結果</p> <p>○道徳の時間のワークシートや評価</p>

## 中間評価

<p><u>各種指標結果</u></p> <p>○生徒、保護者アンケートの結果より、 昨年と同じ項目の「約束事を守って活動できている」「相</p>
---

	<p>手の立場や周りの様子を考えて行動できている」「友達と協力して様々な取組に参加できている」の３項目はおおむね良好であったが、「時間を守って活動できている」「その場にふさわしい言葉遣いができている」はポイントが少し下がった。また、「道徳の授業で考えたことなどが生活に役立っていると思いますか。」で、生徒①よくできている 38.2%②大体できている 47.5%③あまりできていない 11.8%④できていない 2.5%、保護者①15.3%②75.6%③9.2%④0.0%であった。</p> <p>○道徳の時間のワークシートや評価より、１時間の授業で、取り扱った項目について考えたり、生活に役立てたいという気持ちが芽生えたりしているが、そのことが、日常生活にまではつながっている生徒は多くない。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>高いレベルで維持できている３項目については、日頃の指導が規範意識の醸成の育成につながっていると考えられる。「その場にふさわしい言葉遣いができている」「人をおもいやる言動がとれている」では、昨年度に引き続き新型コロナウイルスに係るＴＶやＳＮＳの過激な言動の影響があると考えられる。</p> <p>項目「道徳の授業で考えたことなどが生活に役立っていると思いますか。」で、昨年度保護者、生徒と教職員間で“できている・大体できている”のポイントに大きく差があったものの、今年度は、生徒 85.7%、保護者 90.9%、教職員は 92.3% で、ポイントの差が少なくなった。これは、授業の内容が少なからず家庭内に影響をあたえられているのだと考える。引き続き、授業後の日常生活でそのことが役立てられるかを意識して授業づくりを進めていく。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>言葉遣いについては、生徒どうしだけではなく、教職員も含めて一層の徹底を図っていくことが大切である。また新型コロナウイルス関連の人権に関わる出来事も発生している社会情勢の中、ますます道徳教育・人権教育の重要性が高まってきている。道徳や人権教育などの授業内だけでなく、朝学活や終学活など日々の会話の中で、相手の気持ちを考えること、集団の中での自分について考える機会をつくっていききたい。そして、引き続き自尊感情や自己有用感の育成につなげていききたいと考えている。</p> <p>また、道徳の授業で考えたことを実生活に結び付けることができるように、担任をはじめとする教職員が通信や会話などで触れる機会をつくっていききたいと考える。さらに、本格的な評価を適切に行い、生徒・保護者・地域の方々への説明も丁寧に行うことにより、桃陵中生として“心ある”あたたかい人間関係づくり」を構築していくことを前進させる。</p> <p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>○生徒、保護者、教職員アンケートの結果</p> <p>○道徳の時間のワークシートや評価</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>○コロナの影響が大きいと感じる。</p> <p>○学校だけではなく、地域の大人からの関わりが必要だと思う。</p> <p>○友達と協力して何かをすることが得意な生徒もいれば、そうでない生徒もいます。一面的にとらえずに、すべての生徒の心が豊かになるようにして欲しい。</p>

#### 最終評価

<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p> <p>後期学校評価アンケート「あなたは、道徳の授業で考えたことなどが生活に役立っていると思いますか。」では、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の回答が、教職員は少し上った。生徒・保護</p>
--

<p>者は少し下がった。教職員は、道徳の評価が本人・保護者へ学期末の通知表で知らせ、取り組んでいる実感があるが、生徒・保護者には、成果が感じられないとみえる。</p> <p>「あなたは、人を思いやる言動がとれていると思いますか。」では、生徒・保護者が少し上がった。生徒会活動など校内での様々な活動の中で、人を思いやれる行動をとれていることが多くなってきている。そのことが家庭でも地域でもできるようにさらに伸ばしていきたい。</p>	
自己評価	<p><u>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</u></p> <p>道徳の授業については、その評価を本人・保護者へ学期末の通知表で知らせることになっている。学期末に評価を本人・保護者に知らせることを続けており、内容の可視化はできているように感じるが、授業内で完結してしまい、実生活に生かすことができていない。また、新型コロナウイルスが蔓延している環境の中で、道徳教育・人権教育などの教育活動が、一定の成果を上げている。思いやりについても、教職員はある一定の成果を感じている。</p>
	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <p>学年末の「通知表」や「学習指導要録」の文章表記の評価を適切に行うことを実践できているが、本人や保護者には成果が感じられていないため、学年末のみに関わらず、日々の生活の中で道徳的な考え方を評価する工夫を行う必要がある。</p>
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>○3年間、マスク生活だったので、顔を見て表情を感じて、友達とコミュニケーションをとることができるようなればいいなと思います。</p> <p>○いつも地域の生徒に愛情を注いでもらっていると感じています。</p>

### （３）「健やかな体」の育成に向けて

<p><u>重点目標</u></p> <p>たくましく生きるために、健康や安全を考え、行動する力を育成する。</p>
<p><u>具体的な取組</u></p> <p>①教職員の健康教育に対する意識を向上させ、新型コロナウイルスをはじめとする諸課題に対して、学校全体で取り組む体制を構築する。</p> <p>②教職員対象研修会（食物アレルギー）、救命救急研修会の実施。</p> <p>③担任を中心に毎朝の健康観察の実施。心身の健康の大切さの意識を高める。</p> <p>④行事前の健康観察週間などを通して、規則正しい生活習慣の大切さを指導する。</p> <p>⑤学校保健委員会の実施。</p> <p>⑥保健だよりや掲示物を通して、健康への意識を高める。配布時に担任による保健指導。</p> <p>⑦プール委員会、性教育委員会の実施。</p> <p>⑧歯の健康の指導。う歯治療１００％を目指す。</p> <p>⑨目の健康の指導。視力低下の生徒の受診を勧める。</p> <p>健康診断を健康教育の機会ととらえ、健康への意識を高める取組を充実させる。</p>
<p><u>（取組結果を検証する）各種指標</u></p> <p>○生徒、保護者、教職員アンケートの結果</p> <p>○生徒質問紙の結果</p> <p>○検診結果等</p>

## 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <p>○今年度の視力検査の結果、視力 A～D の生徒の割合は、A (49.1%) B (17.0%) C (26.5%) D (7.4%) だった。</p> <p>視力 CD 生徒の受診率は 46.8% だった。</p> <p>○前期の学校評価アンケートの質問項目で、健康的で規則正しい生活をおくることができていると思いますかという質問に対し、できているという回答の割合は生徒が 80.3%、保護者が 77.8% だった。</p> <p>桃陵中学校は感染症対策をしっかりと行っていると思いますかという質問では、できているという回答の割合は生徒が 96.1%、保護者が 95.4% だった。</p>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>学業に支障が出る C と D の生徒の割合の合計が 33.9% と高い結果であるが、C と D の生徒の受診率は 46.8% と半分以下であった。教室などでは 1 番前の座席にするといった配慮がなされているということもあり、視力が低いことに困りを感じていない生徒も多い。</p> <p>生徒、保護者ともに手洗いやマスク、消毒などの感染症対策は習慣づいているが、規則正しい生活習慣ができていない生徒が 2 割と多い。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>健康診断の結果、医療機関を受診する必要がある生徒への受診のお勧めや受診の必要性、規則正しい生活習慣の確立など、担任と連携しながら懇談の機会や保健だよりなどで啓発していく。</p> <p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒、保護者、教職員アンケートの結果</li> <li>○生徒質問紙の結果</li> <li>○検診結果等</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>○どこかのタイミングで思い切った判断をして、元の生活に戻さないと、以前のような体力にはなかなか戻らないと思います。</p> <p>○コロナ禍ですが、徐々に行事も戻ってきていて、少しずつ改善していてよかったです。</p> <p>○感染対策を徹底して、学校行事など少しずつ戻していきましょう。</p> <p>○マスクはまだしていることが多いが、もう少しマスクをとっていい場面があると思います。</p>

## 最終評価

自己評価	<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p> <p>○学校評価アンケートの「桃陵中学校は感染症対策をしっかりと行っていると思うか」という質問に対し、できているという回答の割合が、生徒 97%、保護者 96.6%、教職員 100% だった。</p> <p>○新体力テスト調査結果を昨年度と比較し、体力合計点の平均が 1 年男子－4.95 点、女子－0.66 点、2 年男子＋4.92 点、女子＋0.81 点、3 年男子－3.19 点、女子－5.93 点だった。</p> <p>京都市平均との比較では、1 年女子と 2 年男女が京都市平均を上回った。</p> <p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>○感染症対策はしっかりと行っているといえる。ただし、前期の適合度と比較すると、生徒の適合度が－0.12 となっており、以前より感染症対策ができなくなったと感じている生徒がいると</p>
------	--

<p>価</p>	<p>思われる。今後も感染症対策の徹底が身に付くよう啓発が必要である。</p> <p>○全校の体力合計点は昨年度と比較して－1.14 と低下しており、コロナ禍による運動不足の影響が続いていると思われるため、体力向上の取り組みが必要である。</p> <p>本校の2年生は男女とも体力合計点が高く、「運動をすることは大切に思う」というアンケートでは男女とも全国平均より高い結果であったことから、運動に対する意欲の高さが結果に表れているといえる。</p>
<p>学校関係者評価</p>	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>○保健体育委員の感染症予防の取組や感染症対策の指導・啓発を活発に行い、感染症対策徹底の定着を図る。</p> <p>○記録の向上だけではない運動の良さを知り、将来も運動を続けていきたいと思えるように、体育の授業や体育的行事を通して達成感や上達を感じられる支援を行い、運動に対する意欲と体力の向上を目指す。</p> <p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>○コロナの影響で学校行事にも制限がありましたが、生徒のために色々工夫して学校行事ができていたと感じています。感謝しています。</p> <p>○来年度以降、マスク着用については個人の判断になっていくと思いますが、生徒全員が気持ちよく、楽しく学校生活を送れるようにして欲しいと願っています。</p>

#### （４）学校独自の取組

<p><b>重点目標</b></p>	<p>① 学びに向かう力・人間性等、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の3つの資質・能力を全ての教科等で育成を実践する。</p> <p>② GIGA スクール構想下、ICT の効果的な教具としての活用を目指し、生徒の情報活用能力を高めると同時に生徒一人ひとりを徹底的に大切にする教育を目指し、個に応じた指導を目指し、支援の必要な生徒への学習の手立てにもつなげる。</p>
<p><b>具体的な取組</b></p>	<p>① 校内研修会・総合教育センター主催の各教科等の研修会でさらに学びを深め、教科会で共通理解を行い、授業等で実施、そして最後に各教科会・校内研修会でチェックを行う。</p> <p>② ・教職員の授業力、教員力を高めるために、職員会議後、研修会後に20分（15分）で、年間20回を目標として若手・中堅道場を開催する。後半10回は、その講師を輪番制にして、4、5人の班編制で行う。</p> <p>・個に応じた学びの充実、「いつでも」「どこでも」「誰とでも」等の学びの選択肢の拡充を目指す。</p> <p>・総合育成支援委員会・各学年会等で支援の必要な生徒への学習の手立ての工夫を目指す。</p> <p>・総合育成支援員・校務支援員・学びのパートナーの協力依頼。</p>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p>	<p>① 生徒、保護者、教職員アンケートの結果</p> <p>② 教職員アンケートの結果</p>



## 中間評価

<div>各種指標結果</div> <p>○生徒、保護者、教職員アンケートの結果から</p> <p><u>質問項目</u> 18「あなたは、GIGA スクール構想のもと、授業で ICT を上手に使い、自分の情報活用能力を高めていると思いますか」</p> <p>生徒 5.45→5.26(0.20 下降) 保護者 5.25→4.92(0.33 下降) 教職員 5.38→4.89(0.49 下降)</p>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <p>GIGA スクールについては、生徒は少し下がり、保護者・教職員は大きく下がっている。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>GIGA スクール構想がはじまって今年で3年目です。授業や家庭学習、そして授業配信など学習のツールとして定着してきました。便利だが使いにくい部分があるのだと思います。さらに生徒の立場に立って、より楽しく、より使いやすい道具となるよう、工夫していきたい。</p>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <p>生徒・保護者・教職員アンケートの結果 教職員アンケートの結果</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>○直接の文字入力等、うまく読み込めず、ストレスを感じることがあると聞いている。ストレスの少ない動作環境にして欲しい。これから情報収集はより必要になると思います。</p> <p>○GIGA 端末やレポート提出に少し苦戦している生徒がいると思います。</p> <p>○オンライン授業は便利だと思いました。</p> <p>○自宅待機期間などの授業を受けられることは、生徒には安心感がありました。</p> <p>○ミライシードは反応が悪く、使いにくいそうです。</p> <p>○GIGA 端末など ICT が、生徒にとってより使いやすくなるように改善して欲しい。</p>

## 最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <p>○生徒・保護者・教職員アンケートの結果から</p> <p><u>質問項目</u> 18「あなたは、GIGA スクール構想下、ICT の効果的な活用と生徒の情報活用能力を高める実践をすすめていると思いますか。※情報活用能力とは、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の三つを含みます。</p> <p>生徒 5.26→5.29 (0.03 上昇) 保護者 4.92→4.97(0.05 上昇) 教職員 4.89→5.19(0.30 上昇)</p>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <p>GIGA スクールについては、生徒・保護者・教職員それぞれ上昇し、そのなかでも教職員が大きく上昇している。</p>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>GIGA スクール構想がはじまって今年で3年目です。授業や家庭学習、そして授業配信など学習のツールとして定着するよう全校体制で取組をすすめてきました。使いにくい部分がありながらも、生徒の立場にたち、取組をすすめてきたことで一定の成果を得ていると感じています。今後も、より楽しく、より使いやすい道具となるよう、工夫すすめていきます。</p>

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>○桃陵中学校 英語科の教員が、伏見南浜小学校6年生の英語の授業に関わりをもっていると聞いています。一小一中としてつながっていることがいいなと思います。</p> <p>○OGIGA 端末を正しく利用できるように、指導を継続して欲しいと思います。</p>
---------	--

#### (5) 教職員の働き方改革について

重点目標	<p>教職員の人間性を高め、生徒に真に必要な総合的な指導を持続的に行うことのできる環境づくりを目指す。</p>
具体的な取組	<p>①学校及び教職員が担う業務の明確化・適正化を目指す。</p> <p>②学校の組織運営体制を見直し、効率化を図る。</p> <p>③勤務時間の在り方に関する意識改革を行う。</p> <p>④外部支援を活用し、教職員の教育活動の一部を軽減する。</p> <p>⑤勤務時間を「枠」してとらえ、その「枠」の中で勤務する習慣づくりを推進する。</p> <p>⑥庶務事務システム・出退勤システムを各自が確実に入力・点検・振り返ることで、勤務を俯瞰的に見る。</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>○出退勤システムを利用した時間外勤務の見直し</p>

#### 中間評価

各種指標結果	<p>○出退勤システムを利用した時間外勤務のデータより。4月(45H超 14名[内 80H超 5名])、5月(13名[内 6名])、6月(16名[内 6名])、7月(11名[0名])、8月(2名[0名])、9月(14名[2名])である。</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>時間外勤務が 45 時間を超えている教職員は年度当初より若干の増減はあるものの(長期休暇期間 7・8 月を除く)横ばいの状態が続いているが、時間外勤務が 80 時間を超える教職員は減少している。これは働き方改革への意識が徐々に浸透し始めている現れだと考えている。一方、働き方改革への意識に具体性をもてずにいることが、時間外勤務が 45 時間を超えている教職員が横ばいの状態が続いている理由であるとも考えている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後は、個々人の働き方改革への意識に具体性をもたせること。具体的には、時間への意識(自身の時間に制約をくわえる)や、仕事のすすめ方(優先順位をつける)などで、常に先を見通し仕事をすすめる状態をつくること、安定した状態がかかえている仕事に対して様々な準備や工夫をすすめること。一人の変化を、全体で共有し、互いに意識をすることにより改善をすすめていきたい。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>出退勤システムの月別データ</p> <p>出退勤システムの週別・日別データ</p>

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>○学校行事や地域のイベント等も緩和され、子ども達に笑顔が増えました。この笑顔を大切に周りの大人・地域の方々と一緒に子ども達を見守っていきたいです。</p> <p>○学校で学んだことを実践できる場所は身近な地域の行事への参加やボランティア活動です。親もPTAを通じて地域に目を向けてもらいたいです。</p> <p>○「音楽と映画の夕べ」「お正月の集い」など地域の関りの行事が少なくなっていて残念です。</p>
---------	--

#### 最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <p>○出退勤システムを利用した時間外勤務のデータより。</p> <p>10月(45H超16名 [内80H超7名])、12月(14名 [内5名])、01月(12名 [内5名])、02月(10名 [1名])である。</p>
自己評価	<div>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <p>時間外勤務の増加で、教職員に共通する特徴は、学校行事や定期テストの時期、生徒指導への対応である。個別にみられる特徴は、若手教員の固定化と部活動による増加である。</p> <p>成果について、前者は、昨今の働き方改革への意識により、少なからず改善がすすんでいると感じている。後者については、年度当初より声かけをすすめているが、大きな成果(変化)には至っていない。</p> <p>課題については、若手教員は経験が少ないことや、それによる先読みが不十分なことで、仕事の全般で時間を要する状況にある。今後は、少ない経験のなかで、どのように仕事をすすめるのか、個人だけでなく周囲も共に考える必要がある。</p> <p>部活動については、競技によるちがいもあるが、年間の3大会(新人・春季・夏季(秋季))が行われる公式戦期間中の一日の拘束時間など、大会運営が課題であると考えます。</p> <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <p>多くの教職員に共通する特徴については、学校行事や定期テストの時期に、それらの仕事を集中させるのではなく、仕事を分散させることを改善策として促す。</p> <p>若手教員については、一定の理解が必要なところもあると思うが、個人で常に改善(考え・実行・振り返)させること、例えば、放課後(部活動終了後)に軸足を置いた仕事のすすめ方を見直し改善するなど、仕事に対する考え方を変えることが必要である。それらに加え、周囲がどのようなサポート(環境整備)を行うかを考えることが必要である。</p> <p>部活動については、これまでの平日・土日への時間的制約(個人の対応)だけでは限界にあると考える。今後は、一個人では改善がはかることが難しい、公式戦等の大会運営をどのように改善させることができるかがポイントになると考える。</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>○南浜生涯学習フェスティバルやはたちを祝う記念式典など地域が大切にしている行事を内容の変更しながらも実施できたことを喜んでいます。</p> <p>○地域行事の開催で、子ども達に笑顔が増えました。この笑顔を大切に、周りの大人・地域の方々と一緒に子ども達を見守っていきたいです。</p> <p>○多くの場面で小中一貫教育の重要性を再確認しています。今後もいろいろな場面で、より一層連携していった欲しいを思います。</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	クラスマネジメントシートの詳細な分析より、いじめの未然防止と早期発見に努める。
具体的な取組	「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。</p> <p>② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。</p> <p>③ 学校評価アンケートを実施し、分析を行い教職員間で共有している。</p> <p>学校評価アンケート（生徒向け）「相手の立場やまわりの様子を考えて行動できている」の項目。</p> <p>④ 生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している。</p> <p>⑤ こころとからだのアンケート、クラスマネジメントシート、いじめアンケートの結果分析を行い、教職員間で共有している。</p> <p>⑥ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。</p>

中間評価

各種指標結果	<p>① 全教職員に配布し、職員会議でいじめ防止基本方針の内容を確認した。補導部会を中心に対応し、必要に応じて全教職員へ周知している。学校評価アンケートの分析結果（教職員）で「あなたは、「生徒一人ひとりを徹底的に大切にする教育を目指して、個に応じた指導や、支援の必要な生徒への学習の手立て」につなげていると思いますか。」では、「よくできている」「大体できている」を合わせると100%であった。</p> <p>② 年度当初の集会にて全校生徒にいじめ対策委員会及び構成員を校長より紹介した。学校評価アンケートの分析結果（生徒）で「あなたは、教職員が生徒一人ひとりを大切にする教育を行っているといますか。」では、「よくできている」「大体できている」を合わせると96.6%であった。</p> <p>③ 職員会議で教職員に学校評価アンケートの分析結果を説明し、実態を共有した。学校評価アンケートの分析結果（生徒）で「あなたは、相手の立場やまわりの様子を考えて行動できていると思いますか。」では、「よくできている」「大体できている」を合わせると90.6%であった。また、「桃陵中学校は、コロナ禍の新しい生活様式の中で、授業や学校行事などの学校生活を適切に再編成していると思いますか。」では、「よくできている」「大体できている」を合わせると93.6%であった。</p> <p>④ 校内共有ファイルを用いて、いじめ対策委員会及び職員会議で共有している。学校評価アンケートの分析結果（保護者）で「お子さんは、教職員が生徒一人ひとりを大切にする教育を行っているといますか。」では、「よくできている」「大体できている」を合わせると92.2%であった。</p> <p>⑤ 各アンケート結果を踏まえて生徒への聞き取り等を行った。職員会議などでアンケートの分析方法や改善策などを紹介した。学年会などで結果分析を行い、生徒理解を図った。</p> <p>⑥ 学校運営協議会で、「いじめ防止基本方針」や学校の取り組みを説明し、理解を得た。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>① 「いじめ防止基本方針」を理解し、組織的対応に努めていることが読み取れた。</p> <p>② 学校で生徒自身が大切にされている感覚を持っていることが分かり、いじめ対策委員会のメンバーだけでなく、それ以外の教職員も生徒から相談されやすい環境であることが伺えた。</p>

	<p>③ おおむね達成できていると考えられるが、10%程度の生徒が達成できていないと感じている。学校生活の中で相手への思いやりを考えられるような指導をしていきたい。特に、今年度はコロナ対策を徹底した上での行事ごとが開催できているので、上手く生徒指導につなげていきたい。</p> <p>④ 補導関係でも総合育成支援関係でも隔週での係会での情報共有がスムーズに行えている。係会後の担当者から全教職員へのメールでの内容の伝達も生徒理解を深めることにつながっている。</p> <p>⑤ こころとからだのアンケートは学年ごとに実施の判断をした。クラスマネジメントシートは教育相談前に行い、細かな聞き取りが行えている。いじめアンケートについては、クラスマネジメントシートと時期をずらし、1年間を通していじめについて把握する機会を細かに設定できている。</p> <p>⑥ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組をHPなどでお知らせした。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>コロナ禍で実施できなかった学校での活動が今年度は、対策を徹底し開催できた。また、今後開催を予定している活動についても学級や学年で目的を達成するために「協力する大切さ」を活動を通して、学級や学年で考えさせるような機会にしたい。そのために活動の目的を明確にし、教職員が一丸となり、生徒に模範を示していく。</p>
	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>○学校評価アンケート（生徒向け）「相手の立場やまわりの様子を考えて行動できている」の項目。</p> <p>○クラスマネジメントシート「クラスのまとまり・友だちとのつながり」の継続変化の項目など。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>○子ども達は、“人を思いやること”が無意識にできていると思う。</p> <p>○コロナ禍の中、大人以上に気を使っていると生徒が多いと思う。</p>

#### 最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>① 全教職員に配布し、職員会議でいじめ防止基本方針の内容を確認した。補導部会を中心に対応し、必要に応じて全教職員へ周知している。学校評価アンケートの分析結果（教職員）で「あなたは、「生徒一人ひとりを徹底的に大切にする教育を目指して、個に応じた指導や、支援の必要な生徒への学習の手立て」につながっていると思いますか。」では、適合度の増減が+0.54であった。</p> <p>② 年度当初の集会にて全校生徒にいじめ対策委員会及び構成員を校長より紹介した。学校評価アンケートの分析結果（生徒）で「あなたは、教職員が生徒一人ひとりを大切にする教育を行っていると思いますか。」では、適合度の増減が-0.02であった。</p> <p>③ 職員会議で教職員に学校評価アンケートの分析結果を説明し、実態を共有した。学校評価アンケートの分析結果（生徒）で「あなたは、相手の立場やまわりの様子を考えて行動できていると思いますか。」では、適合度の増減が+0.21であった。（最終評価に向けた指標）また、「桃陵中学校は、コロナ禍の新しい生活様式の中で、授業や学校行事などの学校生活を適切に再編成していると思いますか。」では、適合度が-0.01であった。</p>
--

	<p>④ 校内共有ファイルを用いて、いじめ対策委員会及び職員会議で共有している。学校評価アンケートの分析結果（保護者）で「お子さんは、教職員が生徒一人ひとりを大切にする教育を行っていると思いますか。」では、適合度の増減に変化はなく+0.00であった。</p> <p>⑤ 各アンケート結果を踏まえて生徒への聞き取り等を行った。職員会議などでアンケートの分析方法や改善策などを紹介した。学年会などで結果分析を行い、生徒理解を図った。</p> <p>⑥ 学校運営協議会で、「いじめ防止基本方針」や学校の取り組みを説明し、理解を得た。</p>
自己評価	<p><u>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</u></p> <p>① 「いじめ防止基本方針」を理解し、組織的対応に努めようとする意識が向上していることが読み取れた。次年度も継続していきたい。</p> <p>② 学校で生徒自身が大切にされている感覚を持っていることが分かり、いじめ対策委員会のメンバーだけでなく、それ以外の教職員も生徒から相談されやすい環境であることが伺えた。前回との一は誤差と許容範囲内であると考えられる。次年度も継続していきたい。</p> <p>③ 学校評価アンケートの分析結果（生徒）で「あなたは、相手の立場やまわりの様子を考えて行動できていると思いますか。」で、前回より+0.21で向上しており、コロナ対策を徹底した上での行事ごとが開催できたことと、それを上手く生徒指導につなげられた。後期より良い方向に変化が見られた。次年度は年度当初から意識していきたい。</p> <p>④ 補導関係でも総合育成支援関係でも隔週での係会での情報共有がスムーズに行えている。係会後の担当者から全教職員へのメールでの内容の伝達も生徒理解を深めることにつながっていた。次年度は補導と総合育成を別時間帯に設定し、参加できる教職員をしっかりと確保した上で継続していきたい。</p> <p>⑤ こころとからだのアンケートは学年ごとに実施の判断をした。クラスマネジメントシートは教育相談前に行い、細かな聞き取りが行えている。いじめアンケートについては、クラスマネジメントシートと時期をずらし、1年間を通していじめについて把握する機会を細かに設定できていた。次年度も継続していきたい。</p> <p>⑥ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組をHPなどでお知らせした。次年度は広報のシステムが変更される部分がある予定なので、それらをうまく活用しながら、しっかりと浸透させていきたい。</p>
	<p><u>分析を踏まえた取組の改善</u></p> <p>教職員のアンケート結果より「豊かな心」の分類では差異はあるが、すべてのアンケートで適合度の増減が一になっている。また、「生徒は、人を思いやる言動がとれていると思いますか。」でも適合度の増減が-0.27となっている。生徒の心、気持ちの面での成長にまだ課題があると教職員が感じていた。おおむね良好な状況ではあるが、現状に満足せず、時間をかけて丁寧に生徒との関係作りをしていき、より「豊かな心」を育むことが必要である。そのために、教育相談期間の充実と休み時間や放課後時間の関わり方がより大事になってくる。</p>
学校関係者評価	<p><u>学校関係者による意見・支援策</u></p> <p>○生徒間トラブルの解決では、学校全体で同じ考えをもって取り組んで欲しいと思います。</p> <p>○生徒一人ひとりの立場に立って、寄り添う指導を継続して行って欲しい。</p> <p>○SC、SSWの力を活用して、生徒をしっかりと見守ってほしい。</p>